

抄 三心一心

一．題意

願文の至心・信樂・欲生の「三心」と浄土論の「一心」との関係を考察して三心は信樂一心に納まることを明らかにする。この信樂こそ他力の信心である。

二．出拠

大経 第十八願文「至~~レ~~心信樂欲~~レ~~生~~ニ~~我國~~一~~」、 浄土論「世尊我一心」

三．釈名

「三心」とは第十八願文の至心・信樂・欲生をいい、「至心」とは「真実心」をいい(Ref: 真実誠種之心)、「信樂」とは「疑蓋無雜」をいい、「欲生」とは「**決定要期**」をいう。「一心」とは「二心無きこと」をいう。

四．義相^{ぎそう}

(一)字訓釈「第一問答」本願の「三心」は、論ではなぜ「一心」と示されたのか
涅槃の真因はただ信心一つであるを愚鈍の衆生に解了易からしめんが為である。

・三心何れも疑蓋無雜である故に、信樂一心に他ならない。

(二)法義釈「第二問答」一心なのに、なぜ三心を誓われたか

如来のお慈悲が広大であるからである。

三心のない衆生は機無 円成 回施 成一のプロセスでお救いに与る。

機無	三心共に本来衆生にはなかった。そこで
円成	如来が真の心すべてが揃った状態で完成され、
回施	その至心の本願力回向して(お与え)下さる。
成一	回向された至心は疑蓋無雜の信樂により衆生の信心となる。

(三)約仏、約生及び生仏相望()の三心 註 三心を仏の心と衆生の心に分けること

ア)衆生の往生浄土である以上、三心は衆生の要件である。

イ)しかし、本願力回向の三心であるからその所属につき

約仏の三心(二心成一 仏の智慧(至心)と慈悲(欲生)が信樂を成立させる)、

仏二生一(一は信樂)、 仏一生二(一は至心)、 約生の三心の考え方がある。

(普遍の原則)至心は仏生共に**真実心**であり、信樂は仏生共に**疑蓋無雜**である。

ウ)約生の三心に三説あるも三説共、至心、欲生は、信樂一心に納まる、

一説が三重出体(至心の体は名号、信樂の体は至心、欲生の体は信樂)である。

(四)三心即一は本願の固有、合三為一は天親菩薩の釈功

成就文に既に一念とあることから三心即一は本願の固有なるも、一心と明確化した(合三為一)のは論主の釈功である。

五．結び

願文の三心は疑蓋無雜の信樂一心に納まる。この信樂こそ他力信心である。合掌